

科目「簿記」学習指導案

| 段階 | 時間 | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 | 評価の観点 | | | 評価方法 |
|-----|-----|-----------------------|--|---|--|-------|------------------|-------------|--------------|
| | | | | | | 知技 | 思 判 表 等 | 学 人 等 | |
| 導入 | 5分 | ・分記法, 3分法における商品の仕訳と転記 | ・グループごとに, 商品に関する仕訳と転記を確認し, 違いを考える。 | ・分記法では商品を販売した際には原価と利益に分けて記帳することを再確認させる。 ・与える問題は, 返品・値引きのない問題とする。 | | | | | |
| | 5分 | ・財務諸表に記載される金額 | ・分記法, 3分法の違いが財務諸表に与える影響について, グループ単位で考える。 | ・分記法の場合, 損益計算書には売上原価が記載されていないことを確認させる。 ・損益計算書に記入される金額は当期分の収益, 費用の総額でなければならないことを理解させる。 ・「簿記」の範囲外ではあるが費用収益対応の原則について理解させる。 | ・分記法による場合と3分法による場合の損益計算書の違いに気付くことができる。 | | ◎ | | ワークシート 観察 |
| | 10分 | ・商品の記録から売上原価を算定 | ・グループごとに分記法, 3分法の記帳から売上原価を計算する。 | ・3分法では, 期首商品棚卸高が繰越商品勘定に記載されていることを理解させる。 | | | | | |
| | 25分 | ・商品に関する勘定の決算整理仕訳 | ・商品に関する勘定の決算整理仕訳を考える。 | ・費用や収益は資産や負債に振り替えなければ次期に繰り越せないことを説明する。 ・どのように未消費分の費用を処理すべきかを考えさせる。 | ・商品に関する決算整理仕訳の必要性を理解できている。 | ○ | | | ワークシート |
| まとめ | 5分 | ・振替仕訳の必要性 | ・商品以外の勘定についても振替仕訳が必要なことを学ぶ。 | ・損益計算書に記載される金額は当期分の収益, 費用の総額でなければならないことを理解させる。 | | | | | |